日本共産党 道議会議員
真下 紀子
困難のりこえ、ともに生きる
はつらつ道政レポート
NO.421 2026.11.1
発行：真下紀子事務所

灯油急騰160円／ℓに迫る
負担軽減・供給確保対策ただちに



物価高騰に加えて灯油が急騰し、160円／Lに迫る勢いです。日本共産党道議団の真下紀子団長はすでに道民負担は増大しているとのべ、20日は道に、22日に北海道経済産業局に 価格安定と負担軽減、供給確保」を要請しました。

暖房・給湯や融雪溝、工事現場や農業ハウスの暖房など冬場の暮らしと経営にとって欠かせないのが灯油です。個人経営の店舗では料金に転嫁しなければもたないなど深刻な事態です。命と健康への影響も懸念され、福祉灯油にとどまらない負担軽減策が必要です。ウォーミングスポット実施も提案しました。

対応した水口伸生経済部長は、国の補助金の動向や供給体制の実態把握と対処、直販スキームや昨年同月比と同量買付への協力要請、福祉灯油などに対する恒久的財源を国に要望すると応じました。また、23日に中東情勢に関する実務者連絡会議を開催し、国と協調して対策をとると答えました。経産局資源・燃料課の五十嵐岳紀課長は、国の施策を説明。供給安定の見通しを示す一方、価格安定効果の目標は示せないが、施策につなぐべく相談にのると応じました。

真下道議は、国際情勢や円安、再エネ普及の遅れを考えると、供給確保も価格安定も甘くないと発言。価格対策がなければ更なる高騰が懸念されるとのべました。

知事は 拘束記者の即時解放を求めよ



13日、ロシア連邦保安局（FSB）が北海道新聞の記者をスパイ容疑で拘束したと発表。日本政府は、20日に外務省欧州局長が訪ロして、記者の即時解放を求めましたが領事面会も実現できていません。記者の衝撃、家族の心痛と不安は計り知れません。ところが鈴木知事は、いち早く記者の安全と開放を求めるどころか、16日に記者から問われてようやく政府にお願いしていくと答えただけです。まったく主体性を欠いています。

日本ジャーナリス会議（JCJ）は 報道の自由は民主主義の根幹で平和構築の礎となるもの」との声明で、記者の安全確保と一日も早い解放を求めました。 北海道新聞は日本のメディアで唯一サハリンに日本人記者を常駐させ、北海道とロシア極東地域のみならず日ロ両国間の経済・民間交流の一助ともなってきた」とその役割を強調しています。

真下道議は23日、道として主体的に即時解放、家族の意向を尊重した対応をとるよう求め、2004年のイラク拘束事件の道の対応を紹介。知事が事実確認中から、卑劣極まりない行為であり、憤りを禁じ得ない」と道の立場を表明。翌日には連絡本部を設置。朝一番で副知事を外務省に派遣し、拘束された3人の安全確保と無事救出に全力を尽くしてほしいと政府に申し入れました。道職員が外務省からの情報入手にあたり、ご家族の大臣要請などに同行。東京事務所上げた支援は職務であり諸費用は道が負担しました。

当時と比較しても、海外で活動する道民の安全をあまりに軽視した対応といわざるを得ないと厳しく指摘した真下議員は、 道として、記者の拘束に対し厳重に抗議すること。即時解放と一刻も早い帰国及び人道的配慮、公平公正な取り扱いを求めること」日本政府と綿密な連携をとり、情報入手に力を尽くし、ご家族に対して速やかな情報提供を行うとともに、ご家族の意向に沿って、道として最大限の尽力をすること」

海外で起こり得る道民の安全にかかわる問題への対応の強化を図ること」を強く要請しました。これに対し道は外務省への問い合わせなどについて説明。要請を受け、今後検討すると答えるにとどまりました。

外務省は26日、領事面会ができ、記者の健康に問題はないと発表しました。



目標もって対策を
経産局にも要請

10月22日、北海道経産局を訪ね、価格安定目標をもった対策を求めました。



議会日程

道議会に設置された決算特別委員会の委員となった真下道議は、10月６日～16日間の書面審査を行う中で、決算書類の不備を指摘したところ、質問前に改善されました。

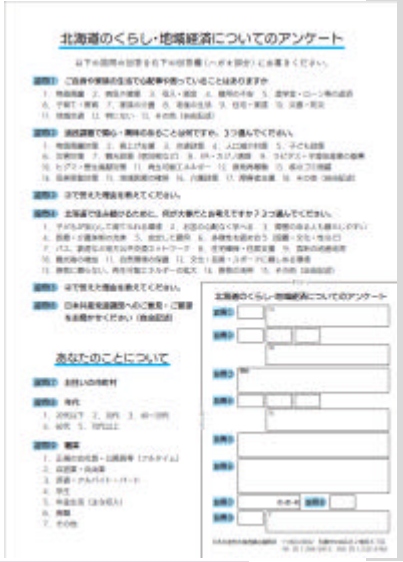
決算特別委員会11月６日～12日までの決算委員会での質疑のため準備を進めています。

11月一斉委員会は、４日経済委員会
５日子ども政策調査特別委員会

アンケート実施中

道政に関するご意見・ご要望をお聞かせください





バーコード・郵送どちらも届きます。お問い合わせは真下事務所まで

韓国・済州特別自治道議会
北海道議会を訪問
意見交換活発に



韓国・済州（チェジュ）特別自治道議会保健福祉安全委員訪問団は、26日、北海道議会を訪問しました。

道議会日韓友好議員連盟の副会長を務める真下道議は、梶谷大志副議長、日韓議員連盟会長らと訪問団を迎え、意見交換をしました。

イ・ギョンチョル委員長をはじめ保健安全委員会委員から、認知症対策や日本の医療・介護制度、車庫証明の制度などについて次々と質問され、真下道議は日本の医療・介護の課題への見解とともにお答えしました。

真下道議から済州島の救急医療や高度医療について質問。訪問団から済州島には総合病院が５か所あり、ドクターヘリでの搬送体制が整っていると説明。高度医療や先進的がん治療などはソウルなどでの治療を要するため、政府は総合医科大学と医療機関の設立を予定していると回答がありました。

済州は車庫証明がなく、人口よりも車両台数が多くなったことで駐車問題が起きているとのことです。日本車庫証明の仕組みに対して住民の反応はどうか質問され、日本では車両購入の際に車庫証明が必要と説明すると、大きな違いがあると応じていました。

委員から私の所属政党について「日本共産党はローカル政党か」と質問が出たため、私から、日本共産党は結党から１０４年の歴史がある国政政党で地方議員も多く、私も中央役員の一人だと説明すると、他会派道議からも驚きの声がもれました。



韓国国慶日記念レセプションで王根華中国総領事とも交流しています。

